

《福井市の公民館に思う》

誇れる福井市の公民館



県公民館連合会会長 市公民館連絡協議会会長
木田公民館館長 元中央公民館館長

江岸 徹

全国的な流れを見ますと、公民館を取り巻く状況は厳しいものがあります。公民館からコミュニティセンターなどと名称が変わり、公民館発足当時の「つどう、まなぶ、むすぶ」の理念が失われてきているところが多くなっています。

県内の状況を見ますと、新たにコミュニティセンターへの動きが出てきているところもあると聞いています。また、職員が行政から直接任命され、館長が行政の人であったり、同じ職場に行政の主事と非常勤の主事がおり、職員の異動もあるなど様々です。

東海北陸公民館連合会の理事会で、各県の会長から「福井は毎年のように全国優良公民館表彰で優秀館に選ばれておりすごいですね。何か特別なことをしておられるのですか。」と聞かれます。また、研修会などに参加した県内の館長は「福井市の主事さんは、よく勉強されていますね。」と感心していました。

福井市の場合は、公民館ごとに運営審議会が置かれていますが、全国を見ますと、全く運営審議会が設置されていないところや、中学校区で一つとか全市で一つしか設置されていないところがあります。しかし、福井市では、公民館と運営審議会が車の両輪のごとく機能しています。また、半官半民であり、これは「福井方式」と呼ばれています。職員が地域で選ばれ、異動もありません。このようなことから、公民館職員が日頃から研鑽につとめ、地域を知り、先を見通し、地域に根付いた取組をしていることが、公民館力を高め、全国から高い評価を受けていることにつながっているのではないのでしょうか。

しかし、課題がない訳ではありません。令和2年度から導入される会計年度任用職員制度について、私たちは雇用や給与の面などで不安でした。雇用については、人事評価制度が導入されますが、これまでのように4年ごとの公募となり一安心しました。しかし、まだ多くの課題が残されています。

来年11月19日、20日の2日間にわたり、全国公民館研究集会ならびに東海北陸公民館大会がフェニックスプラザをメイン会場として福井市で開催されます。前回の大会においても運営等の中心的役割を担ったのは福井市の主事のみなさんでした。この大会の成功に向けても、福井市の公民館職員の力を全国に示そうではありませんか。

これからも、誇りと自信を持って、地域にとってなくてはならない公民館、地域に愛され頼りにされる公民館であり続けられるよう日々取り組んでいきましょう。